

労働局長がベストプラクティス企業を訪問

株式会社ベルポリエステルプロダクツ(防府市)

金刺労働局長は、11月12日(月)に「過重労働解消キャンペーン」の一環として、長時間労働削減に向けて積極的に取り組んでいる企業(ベストプラクティス企業)として、株式会社ベルポリエステルプロダクツを訪問し、具体的な取組内容等について、同社の中瀬社長をはじめ、社員の方からお話を伺いました。

株式会社ベルポリエステルプロダクツ

総合容器メーカー「大和製罐株式会社」の関連企業として、そのグループの一翼を担う合成樹脂メーカーとして創業し、現在は、化粧品の容器、光学用レンズの材料等の特殊な樹脂等を製造しています。

組織は、生産部門、技術部門、販売部門、管理部門の4つの部門があり、防府市に本社及び工場、東京と大阪に営業所があります。従業員数208名(平成30年4月1日現在)の企業です。



経営理念などについて

(局長)

御社は、2年前に厚生労働大臣から、ユースエール企業(※1)の認定を受けられ、正社員の月平均所定時間外労働を20時間以下、年平均の年次有給休暇の取得日数が10日以上、新卒者の離職率が20%以下を達成されています。

まず、この点についてお聞かせください。

※1 若者の採用・育成に積極的で、若者の雇用管理の状況が優良な中小企業を若者雇用促進法に基づき厚生労働大臣が認定しています。

(社長)

当社の経営理念には、

「コンプライアンスに則り、高い倫理観と良識をもって行動します。」

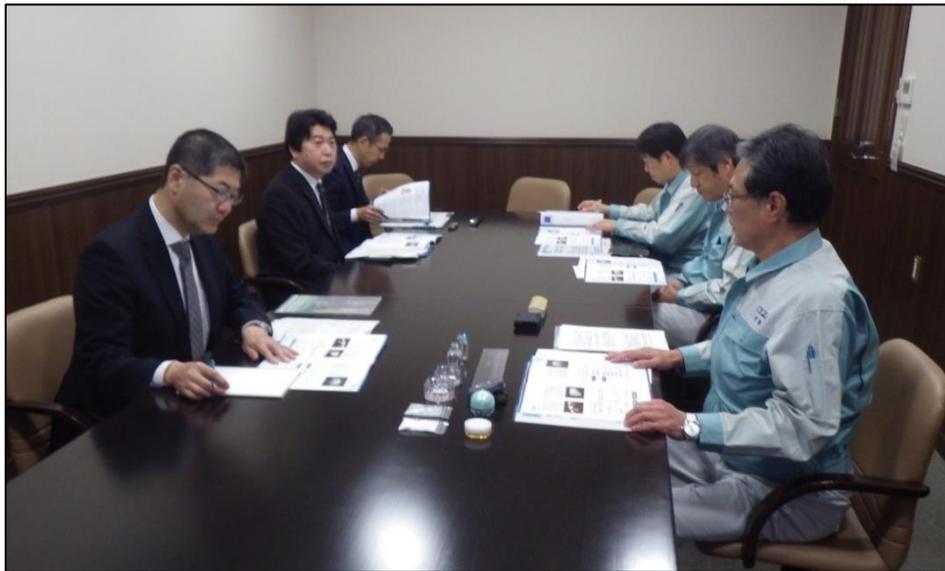
「良き社会人、良き家庭人であり続けます。」

とあります。

昨年度の実績は、時間外労働の平均が月間12.5時間、年次有給休暇の平均取得日数が年間11.3日でした。ユースエール企業認定をいただいたこともありま

して、昨今売り手市場の人材確保が難しい中、新卒者、中途採用者問わずたくさんのお入社希望者があって大変感謝しています。

ワーク・ライフ・バランスの改善については、それぞれ社員が精神的、身体的にゆとりを持てる環境を提供すればモチベーションが上がって効率的な業務が遂行でき、そのことで結果的に生産性が上がり、収益もあがることとなります。そういったサイクルの結果が各社員に分配されて更なる生活向上につながります。こういったサイクルを回すことが我々経営の仕事だと思っています。



対談をする金刺労働局長（手前左）と中瀬社長（手前右）

具体的な取組について

（局長）

では具体的な取組をお聞かせください。

（社長）

安全はすべてに優先する

快適な職場環境づくりという点では「安全は全てに優先する。」という考えの下、労働災害の防止や工場環境の改善を目的に、私も先頭に立って毎月の安全パトロールや安全衛生委員会を開催して継続的な職場環境の改善を実施しています。とくに労働災害防止のための対応については、作業マニュアルの整備や教育は当たり前のことであって、当然設備改善を行えば投資がかかりますが、徹底的に危険箇所を無くすように最優先で取り組んでいます。

多能工化による労働時間削減の取組

現在、樹脂を作る直接部門については、一日の労働時間を8時間として、4

直 3 交代制の勤務体制を採用しています。

理屈上は、交代制勤務であれば時間外労働は発生しないはずですが、現実にはそうはいかず、特定の社員に時間外労働が偏りがちな傾向にありました。

これを解消するために、「多能工化」といって各班的各メンバーが同じレベルで仕事ができるように、どの設備でも扱うことができるようにスキルを上げるための訓練を数年前から行っています。そうすることで、例えば 10 名の現場作業員から 2 人が欠けるようなことがあっても生産ラインの稼働ができるというものです。

一つの班の人材の流動化を進めて、誰がその職場を離れても確実に製造ができるという体制作りを行うことで、時間外労働が削減でき、年次有給休暇を取りたくても取れないという悩みが解消できるような環境を作りたいと考えています。

一方、間接部門においては、技術が会社の命ですので、研究開発には非常に力を入れています。研究開発は、専門性が高い職場なため、実験等の時には担当者が自ら徹夜勤務を行うことや長時間労働となる勤務を強いられる場面が多く、労務管理という面では非常に難しい面があります。従って今年度は人員配置や組織を変えて各社員がリフレッシュできるように、まだまだ十分とは言えませんが色々な手を使っているところです。

社員間のコミュニケーション

私が 3 年前に入院したことを機に、社員間でコミュニケーションを図る場を作らなければいけないという思いがあり、工場内のグラウンドで、春は桜をみてビールを飲もう、夏は納涼祭をしよう、日帰りでもいいからバスツアーをやろうということで 3 年前からイベントを始めています。社員の家族も含めて年々参加者が増え、今年のバスツアーはバスを 2 台手配するほどになりました。私としては普段接することのない社員同士がコミュニケーションを図ることができ、定着してきたと思っています。

若い世代のために

私どもの業界の特徴として、一年中設備が止められないために日曜日や祝日に関係なく交代勤務をしていることがあります。

社員の皆さんが若い時に入社して、家庭を持ち、子供ができて子供の行事があった時に、勤務の都合で休めないとなるとストレスが貯まることになります。ある程度自由にチームの中で融通しあえるようしなければこの先難しいと感じています。若い世代の人のために、入社してもらった人のために、悩みどころはその辺りかなと思います。

女性の活躍促進

女性が働きやすい職場ということでは、当社では出産等で退職する女性社員

は出ておりません。出産後に職場復帰されて、個人の都合に合わせて出勤・退勤時間の調整や配慮をしますし、周囲の社員も含めて女性だからということではなく、きちんとそのスキルを認めていて、経理部門、品質分析部門においてその社員が重要な戦力だという認識が皆さんにありますので、一時職場を離れてもスムーズに現職に復帰できるという形になっています。

少ない人数で会社を運営しているので、それぞれ皆が戦力だという認識が深くなっているものと考えています。

社員の方の取組紹介

(局長)

時間外労働の削減、安全で快適な職場環境の実現、コミュニケーションの形成、女性が働きやすい職場と社長自らが率先して取組んで頂いていることが十分に伝わって参りました。よろしければ社員の方からお話をお聞かせください。

(河村さん)

管理部経理課に所属し、会計及び資金繰りなど経理業務を担当しています。勤続年数は12年7か月となります。うち1年は出産育児休暇を取得しました。年次有給休暇の取得や勤務時間を配慮していただいているので、現在は勤務時間を9時から16時45分として、1時間の短時間勤務をしています。子育てをしている立場からするととても助かっています。急な子供の体調不良などもありますので、その場合は年次有給休暇を取得する場合があります。保育園の行事や参観日なども平日にありますので、そちらも年次有給休暇を取得させていただいて参加させていただいています。

会社の行事で、納涼会などありますので、子供と一緒に参加させていただいています。短時間勤務をさせていただいて、まわりに迷惑をかけているかなと思いつつもみんなに理解していただいているので働きやすい環境です。

くわはら
(河村さん)

私は、入社して3年目で、研究開発部に勤務しています。

私の業務は研究開発で、実験などもありますから、日または月によって労働時間はまちまちです。自分でこの日は長めに勤務するなど勤務時間が自由に組めたりもします。年次有給休暇は結構気楽に取ることができます。私は、季節の変わり目に体調を崩したりすることがありますが、急な年次有給休暇もすんなり受け入れてもらえるという感じの職場な



対談中の河村さん(手前)



対談中の栗原さん(手前)

ので気が楽です。

自分で心がけていることは、ある一週間は頑張っ仕事をしたなら、意識して次の週にはすぐに帰れるようにデスクワークをするというように、自分の中でマネジメントするという事です。

今後の取組について

(局長)

最後に、今後の取組についてお聞かせください。

(社長)

13年前に77名で始まった会社が現在210名の社員を抱えるまでに大きくなりました。企業活動を継続するには人材の確保が最大のテーマと考えており、当社の年次有給休暇の取得状況を見てみますと、平均すればユースエール企業の認定基準をクリアしているというものの、年次有給休暇の取得が年間5日未満の社員もおりますし、まだまだ継続して休暇を取りやすい環境を作らなければいけないと考えています。

くるみん認定(※2)についても取得をぜひ進めたいと思っています。将来、働き方が色々と多様化する中、在宅勤務、フレックス勤務等も視野に入れてさらに子育てをサポートしながら将来その子供たちが是非とも当社に入社したいと思ってくれるような企業に成長していきたいという思いです。

※2 子育てサポート企業として、次世代育成支援対策法に基づき、厚生労働大臣が企業に対して行う認定です。

(局長)

社員全体のスキルアップや社員間のコミュニケーションを図る取組、また、従業員の家庭生活にも配慮して年次有給休暇を取得しやすい環境を整えることはどの企業にも求められる大切なことと考えます。

誰でも比較的ハードル低く休めるような環境の整備は参考になります。

本日は、他社の皆さんの参考となる取組をご紹介いただきありがとうございました。

